

ベトナム訪問記

ファンドマネージャーがみた躍動するベトナム

～ヒト・モノ・カネを引きつける魅力ある国 ベトナム～

お伝えしたいポイント

2017年8月3日

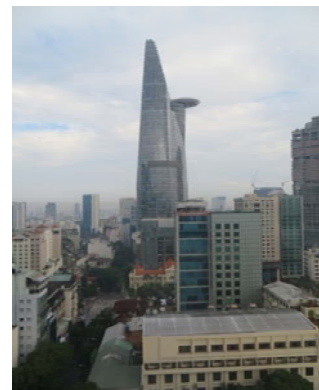
「ヒト・モノ・カネを引きつける魅力ある国 それがベトナム」

- 経済の急成長がヒト・モノ・カネを引きつける
- ヒトを引きつけるベトナム ～観光客の増加で潤う空港～
- モノを引きつけるベトナム ～消費拡大が国内企業への追い風に～
- モノを引きつけるベトナム ～中間所得層の増加と外資参入によるライフスタイル変化～
- カネを引きつけるベトナム ～巨大なインフラ(社会基盤)需要とインフラ投資拡大～

2017年7月下旬に、企業訪問と現地の生の状況を視察するために、ベトナムに出張してきました。

ファンドマネージャーとして大切なことは、投資している国の「今」を実際に自らの目、耳を使って感じるのだと考えています。

今回、ベトナムを訪れ痛感したことは、ベトナムは急速な経済成長によってヒト・モノ・カネを引きつけるパワーを持っているということです。この訪問記を通じて、躍動するベトナムを感じていただければと思います。



中央は、ホーチミンで最も高い建物であるビテクスコ・フィナンシャルタワー。地上68階建て。

経済成長に伴い都市部は大きく発展中。



空港は観光客で大混雑。観光関連産業の勢いを感じることができました。



活気あふれるホーチミン中心部のナムキーコイギア通り。バイク天国ベトナムでは二人乗りは当たり前。



店先に整然と並べられたバイク。これは勤勉な国民性のあらわれか！？

写真は大和投資信託撮影。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ 大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

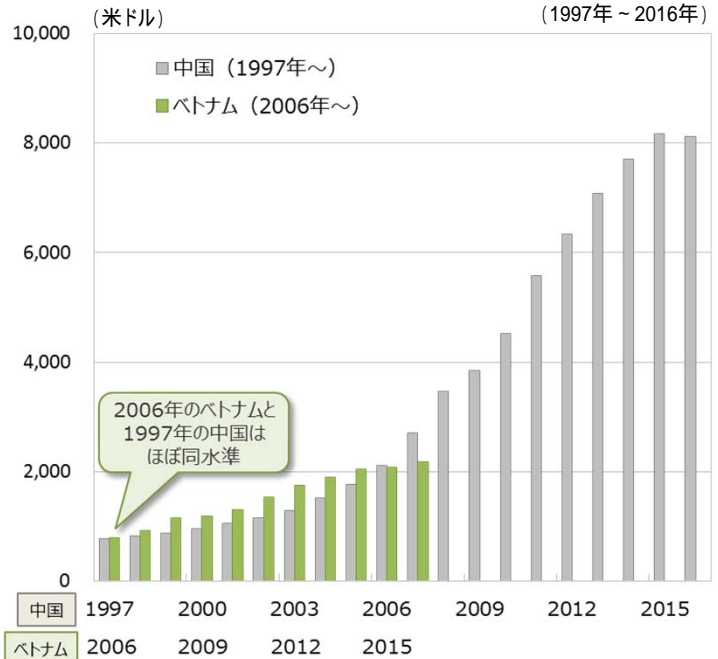
Daiwa Asset Management

< 経済の急成長がヒト・モノ・カネを引きつける >

ベトナムでは、1986年にドイモイと呼ばれる経済改革が始まり、共産党支配下での市場経済への移行や、外資への市場開放を推し進め、高い経済成長を実現してきました。現在も、中国の後ろ姿を追いかける形で経済発展を続けています。

筆者は、ベトナム出身ということもあり、公私を含めて年に3～4回はベトナムを訪問していますが、建設ラッシュにより町並みが毎回様変わりしていると感じています。こういった点からも、経済発展が急速に進んでいることがうかがえます。

ベトナムと中国の1人当たり名目GDPの推移



ベトナムの1人当たり名目GDPが今後中国と類似した動きを示唆・保証するものではありません。



サイゴン川沿いの風景。
川の片側(写真手前)は高層ビルが立ち並んでいます。
一方、反対側はまだ殺風景。
開発余地の大きさと成長性の高さに期待。



道路では現在でもバイクが優勢(写真左)。自動車の普及も進んでおり、2016年の自動車数は前年から27%も増加(写真上)。



大手ゼネコンであるコテコン・コンストラクションによるホテルプロジェクトの建設現場(写真上)。写真左は完成後のイメージ。

写真は和投資信託撮影。(出所)IMF「World Economic Outlook Database April 2017」

1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

< ヒトを引きつけるベトナム > ~ 観光客の増加で潤う空港 ~

主要国際空港であるタンソンニャット国際空港の状況を視察してきました。多くの旅行者がベトナムを訪れている姿を実際に目にすることができました。同空港は、ベトナム空港 (AIRPORTS CORP OF VIETNAM JSC) が所有しており、観光客の増加等による恩恵が期待できます。

こういった力強い観光需要を受け、同空港では拡張工事が現在も進行中です。



多くの外国人観光客がベトナムを訪問していました。タンソンニャット国際空港では、キャパシティオーバーの状態となっており、現在拡張工事が進行中です。

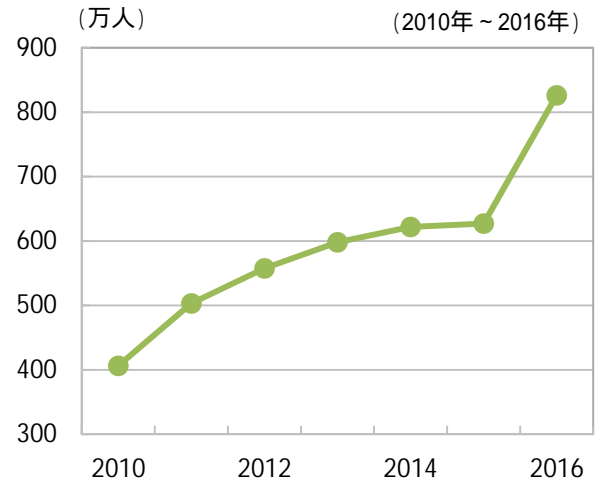


免税店はまだ種類が少なく、現時点では買い物客もまばら。他のアセアン諸国における活況ぶりを勘案すると、今後の成長余地の高さがあるとみられます。

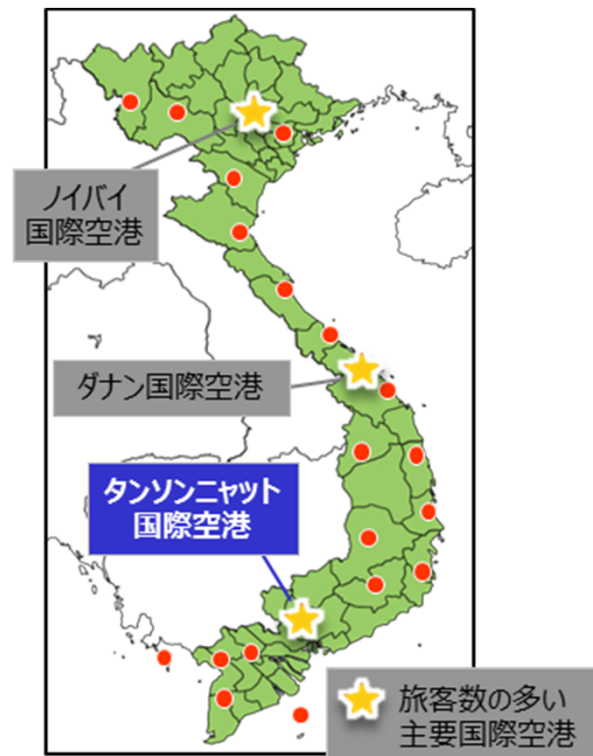


広告スペースにもまだ空きがあり、空港運営会社の収益成長の余地は高いとみています。

外国人ベトナム旅行者数(空路)



空港の所在地



写真は大和投資信託撮影。(出所) VIETNAM NATIONAL ADMINISTRATION OF TOURISM

1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

<モノを引きつけるベトナム > ～消費拡大が国内企業への追い風に～

高い経済成長や人口に占める若年層の多さ、国民所得の増加などから、ベトナムは消費市場としての将来性が期待されています。

現在でも多くの方がローカルな市場や商店で日用品を購入していますが、昨今ではコンビニやスーパーマーケットのような近代的な店も増加しています。特に、若年層を中心にコンビニやスーパーマーケットで買い物をする人が増えていると言われています。



伝統的なパバママストア(小規模小売店)の風景。



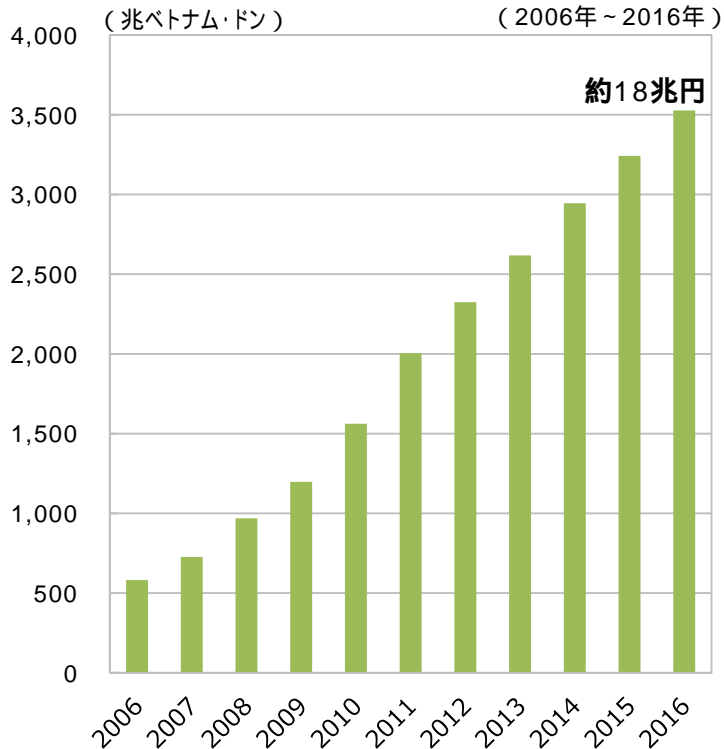
コンビニやスーパーマーケットなどのより近代的な店が増加しています。



品物であふれるスーパーマーケットの様子。

写真は和投資信託撮影。(出所)ブルームバーグ

小売売上高の推移



2016年末値で円換算しています。

< モノを引きつけるベトナム > ~ 中間所得層の増加と外資参入によるライフスタイル変化 ~

ベトナムでは、富裕層や中間所得層が増加傾向にあります。このような購買力の高い層をターゲットとして、海外の百貨店の進出も進んでおり、ライフスタイルの変化とさらなる消費拡大がもたらされると考えられています。

例えば、日本の高島屋は2016年7月にホーチミン市の中心部に「ホーチミン高島屋」をオープンしました。日本の百貨店がベトナムで開業するのは初めてで、日本ブランドの新たな発信拠点としても期待が寄せられています。

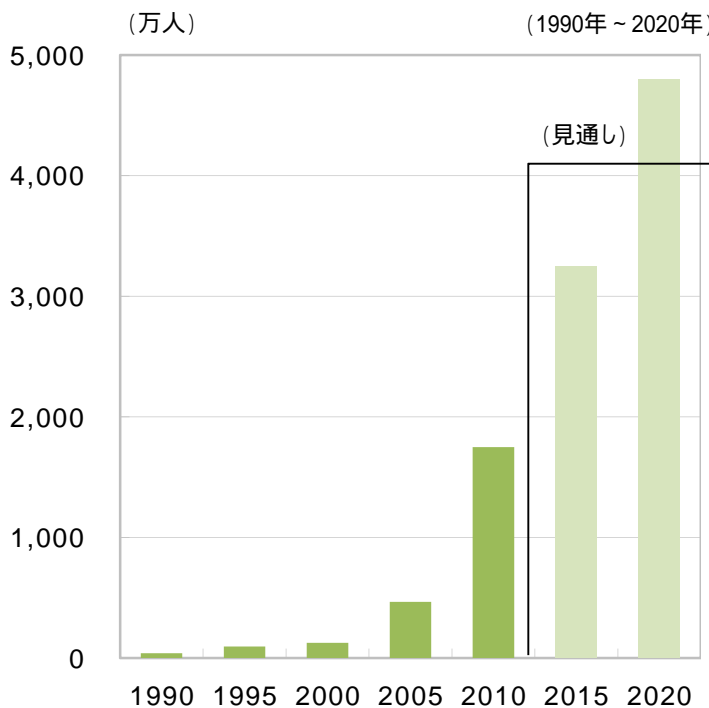


にぎわうショッピングセンターのフードコート。



2016年7月に「ホーチミン高島屋」をオープン。ベトナムで最大規模の百貨店となっています。

中間所得者の推移



世帯可処分所得5,000米ドル以上35,000米ドル未満の家計人口



写真は大和投資信託撮影。(出所)ジェトロ

1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

< カネを引きつけるベトナム >

～ 巨大なインフラ(社会基盤)需要とインフラ投資拡大～

近年右肩上がり成長を続けているベトナムにおいては、着実にインフラ整備が進んでいますが、経済成長のスピードに比べるとまだまだ遅れています。インフラ投資では、こういった課題に対応するために、地下鉄の建設をはじめとしたさまざまな計画が進められています。

また、日本との関わりも深く、過去にはハノイを流れるホン川に架かるニャットン橋が日本の政府開発援助(ODA)により建設されました。ニャットン橋の建設によって、空港からハノイ中心部までの距離が短縮され物流が効率化される等、ベトナムの交通事情に大きな変化が起きました。

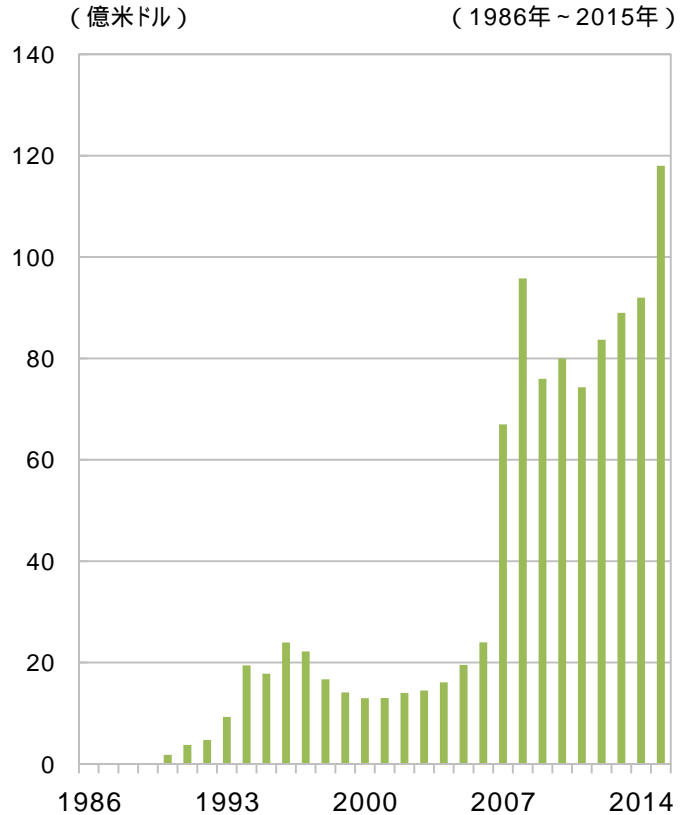


日越友好橋と呼ばれるニャットン橋。ハノイ市街とノイバイ国際空港との間を結ぶ経路上にあり、首都ハノイ市の玄関口となっています。建設により物流の効率化、交通渋滞の緩和、移動時間の短縮などの効果がありました。



ホーチミンでは、地下鉄が2020年に開通予定です。歴史的建造物が立ち並ぶホーチミンでは、地下鉄工事は難易度が高いとされる中、日本企業と現地企業が協力して建設を進めています。

ベトナムへの海外からの直接投資の推移



ハノイでも、地下鉄Metro Train(メトロ トレイン)が建設中となっており、2020年に開通予定です。道路渋滞もかなり緩和されるとみられ、今後の移動手段のひとつとして地下鉄が発展していく見込みです。

写真は大和投資信託撮影。(出所)世界銀行

1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。